

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グリーンエネルギー変換工学	申請大学名	山梨大学
申請大学長名	前田 秀一郎		
プログラム責任者	川村 隆明		
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>実施計画については e-learning システム、共通ラボ設置等において一部遅延が認められるが、全体としては順調に実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムの企画・運営・評価体制については自己評価委員会、外部評価委員会の設置など順調に構築・運営されている。 指導・支援体制については産・官との教育体制の構築や海外教員招請などの具体策が実行されている。 年間学位授与予定者数 15 名に対し、平成 24 年度の学生の獲得実績は博士課程前期 13 名、博士課程後期 3 名と未達であるが、インタビューを行った学生においては、高い意欲と本プログラムに対する十分な認識を有しているように見受けられた。 学位プログラムの実施状況については本プログラムのための 34 の講義科目の新設、海外教員による特別講義などが実行されている。異分野の学生・教員を交えた研究発表会の実施、ミニ国際セミナー、国際ワークショップの開催なども実行されている。政府調達手続きが必要な e-learning システム、共通ラボ設置については補助金の交付時期との関係上計画より遅れている。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <p>上記の進捗状況概要を踏まえ、今後改善を要する点、実施した助言は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 優秀な学生の獲得については積極的な策を講じる必要がある。特に博士課程後期は学外からの獲得を考えなければ、質、人数ともに不足することが危惧される。 34 の講義科目が短期間で新設されていることから、その内容がオンリーワンとしての特色が十分盛り込まれているかの吟味を今後行う必要がある。 e-learning システムの内容と計画予算との整合性について再検討が必要である。現状は講義の録画を学生に配信するもので、講義の復習や履修科目以外の講義も学習できる点で学生に好評であるが、計画予算との関係が不明確である。 ミニ国際セミナー、国際ワークショップの開催の機会を利用し、その企画立案の段階から本プログラム学生を主体的に参画させ、将来は自らの力で国際セミナー、ワークショップを開催する能力を養っていけるように指導していくことが望ましい。 在学中の経済的支援が学生には大きな助けとなっているが、反面将来のキャリアパスについては具体的なイメージを未だ把握できていないようである。種々の議論はなされているが、速やかにキャリアパスについての具体的なイメージづくりを行い学生に対し示すことが必要である。 			